

札幌あいの里高等支援学校 令和7年度学校評価の分析及び考察について

1 実施状況

(1) 実施期間 令和7年12月

(2) 回収率

- ・職員学校評価 100%
- ・保護者アンケート 42%(74名/175名)※昨年度は、40%
- ・生徒アンケート 84.6%(149名/175名)

(3) 職員学校評価の構造

- ・1～11番は「学校は…」となっており、学校経営・学校運営に関することの評価
- ・12～22番は「私は…」となっており、一人一人の運営参画に関することの評価

(4) 4段階評価

- | | |
|---------------|-------------|
| 1:達成していない | (達成度 0～25%) |
| 2:あまり達成していない | (25～50%) |
| 3:徐々に達成してきている | (50～75%) |
| 4:達成している | (75～100%) |

2 分析及び考察(最重要課題)

| 12 服務 | | | | | | | | |
|--------------|--------|---|---------------|----|----|----|----|------|
| 教職員 | 服務 | 私は、法令を遵守し、教育公務員としてふさわしい言動や態度で職務に当たっている。 | コンプライアンス意識の向上 | 66 | 20 | 0 | 1 | 3.47 |
| 13 人権、教職員の姿勢 | | | | | | | | |
| 教職員 | 人権 | 私は、全ての授業で、生徒の呼称を付けて指導・支援に当たっている。 | 人権の尊重 | 67 | 13 | 3 | 1 | 3.51 |
| 保護者 | 教職員の姿勢 | 学校の職員は、生徒の人権を尊重して丁寧な指導に取り組んでいる。 | 人権の尊重 | 53 | 15 | 4 | 2 | 3.61 |
| 生徒 | 先生の姿勢 | 先生は、すべての授業で呼称(～さん)を付けて呼んでくれる。 | 服務規律の保持 | 87 | 30 | 21 | 11 | 3.30 |

【考察】

- ・ 服務や人権、教職員の姿勢について、教育公務員として徹底しなければならないことから、全ての教職員が「達成している」と回答する必要がある。
- ・ 授業中に呼称をつけて呼ばれていないと回答する生徒は学年が上がるにつれ多くなっている（1年→5、2年→10、3年→18）
- ・ 服務における1の評価は、不適切な言動による指導があった職員が自身の反省の評価として回答している。

【改善方法】

- ・ 年度内に、服務や人権に対する意識の徹底を図るため、集合研修、個別研修を実施するとともに、年度当初には職員行動指針並びに本校ローカルルールの読み合わせを行う。
- ・ 各授業においては、敬称をつけて呼名することを徹底する。
- ・ 年度当初と学校評価時期など複数回、生徒へのアンケートを実施し、質問内容で呼名しない職員を把握に努め、個別に人権に係る研修を行う。

2 分析及び考察(重要課題)

| 2 教育課程、学習 | | | | | | | | |
|-----------|------|------------------------------------|----------|----|----|----|---|------|
| 教職員 | 教育課程 | 学校は、3年間を見据えた教科の単元や題材が構成されている。 | 教育課程の見直し | 18 | 47 | 12 | 3 | 2.83 |
| 教職員 | 教育課程 | 学校は、3年間を見据えた学科の単元や題材が構成されている。 | 教育課程の見直し | 22 | 50 | 8 | 3 | 2.95 |
| 保護者 | 学習 | 学校は、生徒が学んだことを生活で生かすことのできる授業を進めている。 | 授業評価、改善 | 39 | 27 | 7 | 1 | 3.41 |
| 生徒 | 学習 | 私は、学校の授業が分かりやすい。 | 授業評価、改善 | 56 | 59 | 27 | 7 | 3.10 |

【考察】

- ・教職員が、3年間を見据えた教育課程の編成にかかる見直しを意識して取り組んでいる。
- ・一方、生徒で、授業が分かりにくいと回答している生徒が増加（1年→9、2年→10、3年→15）しているが、好きな教科、嫌いな教科で判断している可能性も考えられる。

【改善方法】

- ・生徒に分かりやすい授業を進めるために、研究や校内研修の充実を図り、授業改善の取組を進める。
また、3年間の見通しをもち、学ぶことができるよう単元の構成や題材について生徒の学びの状況を定期的に確認し、教育課程の見直しを進める。
- ・次年度は分かりにくいと回答する教科等を把握できる質問内容に変更する。

2 分析及び考察(重要課題)

| 15 保護者連携、相談支援 | | | | | | | | |
|---------------|-------|--------------------------------------|------------------|----|----|----|----|------|
| 教職員 | 保護者連携 | 私は、面談等を通して、保護者が分かる丁寧な説明に努めている。 | HR担任や主任などの対応力の向上 | 51 | 34 | 2 | 0 | 3.30 |
| 保護者 | 相談支援 | 学校は、生徒の悩みを受け止め、気持ちに寄り添った指導や支援を進めている。 | 心情に寄り添った指導(慮る) | 51 | 19 | 2 | 2 | 3.61 |
| 生徒 | 相談 | 私は、自分の悩みを学校の先生に相談できる。 | 心情に寄り添った指導(慮る) | 65 | 36 | 25 | 23 | 2.96 |

【考察】

- ・生徒が教職員に対して相談しにくいと感じている理由について進路での回答との関連で分析しなおす必要がある。
- ・相談しやすい雰囲気作りや、様々な機会を用いて、どのような方法や内容で相談ができるのかなどを具体的に説明する必要がある。
- ・1学年において相談しやすいと回答する生徒が多い。学年が上がるにつれ相談できるという回答が減少する傾向があるが、学校以外への相談ができてきているかを把握することが必要である。

【改善方法】

- ・日頃から生徒の様子をより丁寧に観察するとともに、組織として定期的に情報共有ができるようにする。
- ・相談できるツールや仕組みを具体的にわかりやすく繰り返し説明するなど、生徒が気軽に相談できるな環境の工夫を図る。
- ・学校への相談があまりできないとの回答に対して、外部の相談の利用などを含め、どのような状態なのかを補足質問などで把握する。

2 分析及び考察(教職員評価から)

| 5 危機管理体制 | | | | | | | | |
|----------|--------|---------------------------|------|----|----|---|---|------|
| 教職員 | 危機管理体制 | 学校は、実際の災害を想定した避難訓練を行っている。 | 危機管理 | 53 | 31 | 3 | 0 | 3.32 |

| 6 校務分掌 | | | | | | | | |
|--------|------|---------------------------|--------|----|----|----|---|------|
| 教職員 | 校務分掌 | 学校で行う業務の内容を適切に分掌に位置付けている。 | 業務の平準化 | 19 | 52 | 12 | 0 | 2.92 |

【考察】

- すべての職員が生徒の安全を守るという意識が大切であり、今年度は、避難訓練の対応マニュアルの見直しを実施した。
- 業務の平準化については、すべてを均等にすることは難しいが、職員にとってやりがいを感じるものになっているか把握できない。

【改善方法】

- マニュアルを常に見直し、日ごろからそれぞれが役割を理解し、すべての職員が自分事として対応できるよう訓練内容を工夫する。
- 教職員の業務推進に関わり、定期的な面談の機会等を活用し、一人一人が得意分野を生かしながら、効率的に業務が進められる体制を工夫する。

2 分析及び考察(教職員評価から)

| | | | | | | | | | | |
|----------|-------|---|-------------------|----|----|----|---|------|--|--|
| 17 研修 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 研 修 | 私は、授業公開をきっかけに、授業改善につながっている。(教諭のみ回答) | 校内研修による専門性向上 | 28 | 48 | 2 | 0 | 3.09 | | |
| 21 ICT活用 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | ICT活用 | 私は、生徒が課題解決に活用できるよう授業でICTを用いている。(教員のみ回答) | ICTの活用と推進 | 26 | 49 | 11 | 0 | 2.99 | | |
| 22 働き方改革 | | | | | | | | | | |
| 教職員 | 働き方改革 | 私は、本校の「働き方改革」の4つのアクションを守っている。 | 自分事として捉えた働き方改革の推進 | 43 | 41 | 3 | 0 | 3.20 | | |

【考察】

- ・各項目とも自分事と捉えて取り組む姿勢がみられるが、研修・ICT活用については、生徒アンケートにおいて、授業が分かりにくいと回答する生徒が学年進行で増えることを踏まえ、取り組みの充実が必要である。
- ・働き方改革では、会議時刻はほぼ守られているが、提出期日に遅れることや出退勤の打刻状況の確認漏れをする職員が一定数いる。

【改善方法】

- ・校内研修において、授業づくりにかかる取組を次年度も実施し、ICT活用についても実践交流できる場をつくる。
- ・働き方改革では、今年度示した、4つのアクションが各職員の基本行動として定着するよう引き続き取り組む。

2 分析及び考察(保護者アンケートから)

| | | | | | | | | |
|-----|-----|--------------------------|------------|----|----|---|---|------|
| 保護者 | PTA | 私は、PTAが取り組んでいる活動を理解している。 | PTA活動の参画意識 | 38 | 29 | 5 | 2 | 3.39 |
|-----|-----|--------------------------|------------|----|----|---|---|------|

【考察】

- ・ あいcircleでの運営協力、PTA茶話会、研修会など、活動内容を充実させ、年間計画を早めに周知したことで活動への理解が高まった。

【改善方法】

- ・ 各学科の教育活動の機会とPTA行事の機会を重ねるなど、保護者が活動に参しやすいよう工夫する

2 分析及び考察(生徒アンケートから)

| | | | | | | | | |
|----|------|-----------------------|------|----|----|----|---|------|
| 生徒 | 生徒指導 | 私は、あいの里ルールを守って生活している。 | 規範意識 | 76 | 44 | 20 | 9 | 3.26 |
|----|------|-----------------------|------|----|----|----|---|------|

| | | | | | | | | |
|----|----|-------------------------|-----------|----|----|----|---|------|
| 生徒 | 進路 | 進路先を決定するために必要な学習を行っている。 | キャリア教育の推進 | 80 | 48 | 17 | 9 | 3.30 |
|----|----|-------------------------|-----------|----|----|----|---|------|

【考察】

- ・ 学校生活を送る上でのルールを一部の生徒から守ることが難しいとの回答が多くなっている。
このことは、生徒一人一人の課題や困難さに応じながら、今後社会で生活する上でルールを守ることの大切さをよりに丁寧に指導する必要がある。
- ・ 進路先決定に必要な学習が行われていることを感じづらい生徒が各学年で一定数ある。

【改善方法】

- ・ ルールの理解、一人一人の課題や困難さへの対応、不登校傾向の生徒に対する支援など、生徒の成長に合わせつつも基本的な事項は繰り返し確認する場を作り、学年進行による規範意識の低下がないかなどを常に確認し取り組む。
- ・ 卒業後の生活をイメージできるよう意味付け、価値付けをしっかりとした教育活動の改善・充実に取り組む。

課題への対応

コンプライアンス

授業における敬称（～さん）づけの完全定着と勤務時の職員行動指針・ローカルルールの再確認

教育課程

3年間を見通した単元構成の再編
研究・研修による「分かりやすい授業」の追求

相談体制

相談ツールの周知と活用状況の把握、組織的な相談体制の充実による心理的安全性を高める取組の向上

継続的な改善

ICT活用

生徒の課題解決に資する実践の授業交流を行い、活用力を底上げする

働き方改革

4つのアクションの確実な定着と個人の得意分野を活用した業務分担等を工夫し、組織全体の効率化を図る

危機管理

防災など安全管理マニュアルの不断の見直しと、形骸化しない実際的な訓練の実施